

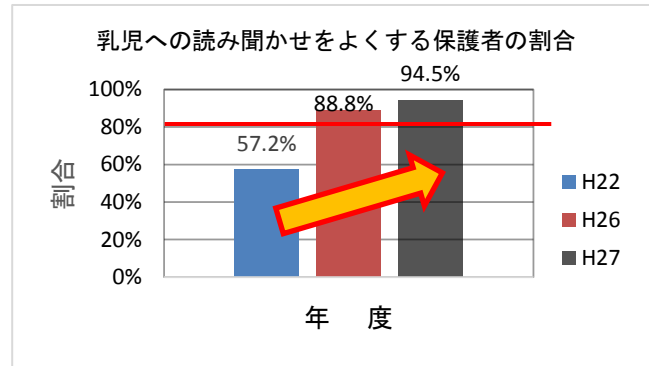
第2次酒田市子ども読書活動推計画（案）概要

子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

【重点施策の評価】

●ブックスタート事業の導入

大きな
成果あり



●ボランティアの養成

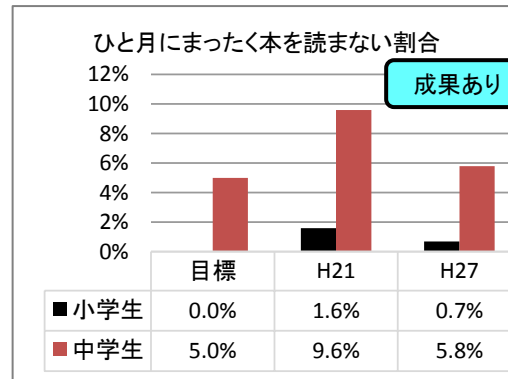
読み聞かせボランティアを育成するための基礎編とステップアップ編の2部構成の講座を開催。目標は200名の受講者だったがH22年度は125名、平成26年度は65名と目標には届かなかった。

→「ボランティアの育成」も大事だが読み聞かせ講座の方にも重点を置くべき

- 読書の意義と重要性の広報
- 魅力ある学校図書館づくり
- 学校と市立図書館の連携強化

成果あり

→学校と市立図書館の連携強化は課題



成果あり

→年齢が上がるにつれて不読率が増える傾向については課題

ブックスタートほかこれまでの施策は継承する。

第2次子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

【基本方針】幼少期に身に付けた読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援する

- 1 子どもたちの身近に本があること
- 2 子どもたちの身近に本に親しむ場所があること
- 3 子どもたちの身近にいる大人たちが、子どもと本をつなぐこと

第2次計画【新】重点施策について

●「読書手帳」の活用

・冊数を競うものではなく、読書習慣の醸成、豊かな心をはぐくむツールとして活用することを目的にします。（家読でも活用）

◇配布方法（案）

保育園・幼稚園児から中学生までの子ども全員に配布が理想。

※配布方法：

- 0歳～：ブックスタート時
- 3歳～：保育園・幼稚園等
- 小中学生：各学校より配布



●「家読(うちどく)」の推進

「家読(うちどく)」とは、家族一緒に読書等を楽しむ時間を過ごすことによりそこから広がるコミュニケーションを大切にしようという活動。
→日常生活から読書習慣を形成。

◇取組内容

- ・「家読(うちどく)推進の日」の推奨。同時に「メディアダイエットの日」も提案する。
- ・家読(うちどく)推進チラシの配布、家読(うちどく)だよりの発行・配布（おすすめ本の周知、家読を活用した事例、保護者・児童の声など）

●「読み聞かせ講座」の拡充

読み聞かせの講師を保育園・幼稚園・学校等へ派遣し、読み聞かせの研修会等に利用してもらう。

●「図書館利用カード(子ども用)」の配布

ブックスタート時(3か月健診)の読み聞かせ体験時に、乳幼児用の「図書館利用カード(子ども用)」を作成、配布。
→図書館の利用者増、貸出冊数増にもつながる。

